

令和 5 年度

決算の概要について

令和 6 年 9 月 1 7 日

長 岡 市

令和5年度 決算の概要について

令和6年9月17日

令和5年度の一般会計決算は、歳入総額は、1,443億6,607万5千円、対前年比44億73万7千円（3.0%）の減、歳出総額は、1,380億2,004万7千円、対前年比36億4,014万1千円（2.6%）の減で、差し引き形式収支は、63億4,602万8千円の黒字となりました。

ここから翌年度に繰り越すべき財源を差し引いた実質収支黒字額は、49億8,497万9千円となりました。

その要因として、市税や普通交付税、ふるさと納税寄附金などの一般財源収入が前年度より増えたことに加えて、令和4年度の実質収支約63億円が繰越金として含まれていることが大きいと考えています。

一方、歳出では、光熱費や物価の高騰、賃金水準の上昇等の影響が各事業に及んできた結果、実質収支の規模は前年度を約13億円下回りました。

また、財政調整基金には、財政運営の安定化と将来への備えとして、令和4年度からの繰越金をもとに10億円を積立てました。

歳出については、急激な物価高騰や新型コロナウイルス禍後の社会変化に対応するため、快適で安全安心に暮らせるまちづくりに向けた取り組みとして、子育て環境と医療・福祉の充実や、地域コミュニティ力の強化と愛着の持てる地域づくりに取り組みました。

また、「新しい米百俵」による人材育成では、「米百俵プレイス ミライエ長岡」を拠点に長岡の未来を担う人材を育成し、「長岡版イノベーション」による成長戦略と地域経済の活性化では、循環型社会の実現や地域と行政のDX化を進めました。

さらに、長岡を楽しく元気にする活動の推進と魅力発信として、誰でも気軽に参加できて元気になれる機会と環境を整えるとともに、歴史の継承と地域資源を活かしたまちづくりを進めました。

次に、令和5年度に実施した主要な事業について、説明いたします。

I 快適で安全安心に暮らせるまちづくり

1 子どもの成長と子育てを応援する環境づくり

① 妊産婦と子どもの健診体制強化

産婦健康診査費用の助成などにより、妊産婦の経済的負担軽減と産後うつ予防を図ったほか、子どもの弱視を早期に発見し、支援につなげるため、3歳児健診時に視力の屈折検査を導入するなど、妊産婦と子どもの健診体制を拡充しました。

② 子どもの発達相談における支援体制の強化

こども発達相談室に経験豊富な保育士3人を相談員として配置し、601件の相談に対応するなど、相談・支援体制を強化しました。

③ 発達特性のある子どもと保護者への支援の強化

小学校就学前の5歳児と保護者を対象に、集団行動が苦手などの発達特性に早期に気づき、適切な支援につなげるきっかけとなる発達相談会を13回開催し、98人の相談に対応しました。

2 医療・福祉の充実と健康づくりの推進

① 障害者の緊急相談体制の強化

在宅で生活する障害者の状態の悪化や、同居する家族の急病などの緊急事態に備えて、相談に24時間対応し、施設への短期入所にすみやかにつなげるための支援体制を整備しました。

令和5年度は、緊急時の支援を希望する本人や家族と入所先や支援内容を相談したうえで、4人の障害者を事前登録しました。

② 認知症の人と家族への一体的な支援プログラムの実施

軽度の認知症の人とその家族を一体的に支援するため、市内2か所にミーティングセンターを開設しました。認知症の人や家族同士が交

流し、専門的な知識を持つ職員の支援で本人の不安や家族の介護の負担感を軽減するためのプログラムを20回実施し、延べ132人が参加しました。

- ③ eスポーツやスマートフォンを活用した高齢者の認知症予防の推進
新たな活動を体験することで、高齢者の脳を活性化し、社会参加と交流を図るため、介護予防教室の中でeスポーツを活用した体験会を2回開催し、延べ32人が参加しました。

また、スマートフォンやLINEの操作を学ぶ講座を10回開催し、延べ189人が参加しました。

3 地域コミュニティ力の強化と愛着の持てる地域づくり

- ① 地域が自ら行うコミュニティ活動への支援

多様な地域課題の解決を図るため、コミュニティ推進組織が自主的に行う新たな事業に対する補助制度を新設し、9地区の活動を支援しました。

また、支所地域の実態に合わせた地域づくりを支所と地域が一体となって進めるため、コミュニティセンター職員を7人増員しました。

- ② 地域の未来を担う高校生への支援

住み慣れた地域から離れることなく通学できるよう、遠距離通学する高校生272人に路線バス定期代金を支援し、通学に係る経済的負担の軽減を図りました。

- ③ 住民サービスや地域課題への対応の強化

コミュニティ推進組織と支所が一体となって進める新たな地域づくりや課題解決を支援するため、ごみの不法投棄や違法駐車を防止するための看板設置、冬期間における児童登下校の送迎など、6件の活動を支援しました。

④ 町内会の活動継続の支援

物価高騰の影響を受ける町内会の公民館、防犯灯の維持管理経費や各種活動経費を支援することで、町内会の費用負担増加を抑制し、新型コロナウイルス禍で停滞した地域の活動を推進するため、945町内会に給付金を支給しました。

4 身近な生活環境の整備と自然災害への備え

① 包括的な土木施設管理の対象地域と維持管理範囲の拡充

三島、小国、和島、川口地域で導入していた市道の包括的管理業務について、中之島、越路、寺泊、与板地域にも拡充しました。

さらに、川口地域では従来の市道に河川や公園の管理も含めた包括的な土木施設の維持管理体制を構築しました。

② 左岸バイパス北延伸区間の全線開通

平成27年度から整備を続けてきた左岸バイパス北延伸区間の整備を完了し、全線で供用を開始したことで、長岡北スマートインターチェンジから長岡東西道路までを結ぶ、南北5.2キロメートルの広域幹線道路ネットワークを構築しました。

③ 女性の視点からの災害対応力の強化

市の防災政策に女性の視点を反映することで、災害対応力のさらなる強化を図るため、様々な立場の女性が参加するワークショップを3回開催し、防災に関する女性の困りごとや、課題に対するアイデア出しなどの意見交換を行いました。

II 「新しい米百俵」による人材育成

1 「米百俵プレイス ミライエ長岡」を拠点とした人材育成の推進

① 「米百俵プレイス ミライエ長岡」西館の先行オープン

7月22日に人材育成と産業振興、イノベーションの拠点「米百俵

プレイス ミライエ長岡」西館を先行オープンしました。

令和5年度末までの来館者は約27万2千人で、高校生や大学生を中心に互尊文庫の貸出カードを1,858枚発行したほか、ミライエ長岡周辺の歩行者通行量は1.6倍に増加しました。

2 「長岡ワークモデル」の普及と多様な人材の活用

① 産業イノベーションの推進

ミライエ長岡西館に移転オープンしたN a D e C B A S Eを拠点として、地域おこし協力隊や地域活性化起業人を任用し、次世代に対応する産業振興と人材育成を図りました。

また、産学官連携で課題解決を目指すコンテストでは、学生26人と地域の5事業者が参画し商品開発に取り組んだほか、企業同士や産学のマッチングを促す展示会やイベント等の交流事業を展開しました。

② 外国人材が活躍できる環境の整備

外国人材活用支援アドバイザーを任用し、企業訪問を通じたコンサルティングや外国人材受入れ環境の整備を伴走型で支援し、留学生16人が市内企業11社のインターンシップに参加しました。

また、インターンシップを希望する留学生と企業をマッチングするウェブサイトを新たに構築しました。

3 未来をつくる人材育成の推進と教育環境の整備

① 中学校部活動の地域移行に向けた環境整備

中学校部活動の段階的な地域移行に向けて、地域クラブ活動の基本方針などを策定したほか、指導人材を確保するため吹奏楽指導者講習会を開催しました。

また、ジュニアスポーツ活動の新たな受け皿として、eスポーツやアーバンスポーツを推進する3団体を支援しました。

② 児童の冬期間通学費の支援

冬期間に徒歩通学する児童の通学の安全を確保するため、通学費助成制度の対象地域を市内全域に広げ、路線バス利用を対象に追加するなど補助要件を緩和したほか、対象期間拡大に伴う補助上限額の増額等を行い、120人を支援しました。

③ 不登校児童・生徒の支援体制の強化

家族以外の人との関わりや登校が困難な子どもたちに社会との関わりのきっかけとなる居場所を提供するため、「自立支援スペースほっとルーム」を開設し、延べ737人の利用がありました。

また、専門相談員として自立支援コーディネーターとスクールソーシャルワーカーを新たに配置し、個別相談や訪問相談など、子ども一人ひとりに寄り添い、きめ細やかな支援を展開しました。

Ⅲ 「長岡版イノベーション」による成長戦略と地域経済の活性化

1 日本初の「イノベーション地区」創設に向けた取組

- ① 「場の力」を活用したイノベーションを創発するまちの調査や研究
内閣府、東京大学の研究機関（CREI）と締結した研究連携協定に基づき、長岡市をフィールドとして、イノベーションを生み出す場や交流の在り方の検討など、日本初の「イノベーション地区」の創設に向けた調査研究や情報発信等を行いました。

2 循環型社会の実現に向けた取組の推進

- ① 「長岡版カーボンニュートラル チャレンジ戦略2050」の推進
雪国でも効率的に発電できる太陽光パネルやソーラー照明灯の設置方法等を確認するため、長岡駅前ペDESTリアンデッキや中央図書館など、市内13か所の公共施設をフィールドにした実証実験を行いました。

また、LED照明や省エネ設備などの高効率機器を導入する70事

業者を支援しました。

② 公共施設のLED化の推進

省エネ効果の高いLED照明への切替えによる光熱費節減を積極的に進めるため、コミュニティセンター6か所のLED化工事を実施しました。

③ 循環型社会を実現するバイオコミュニティの推進

産学官金53団体からなる「長岡バイオエコノミーコンソーシアム」において、国内最大級のバイオイベント等に出展したほか、多様な業種・業態の人たちが異なる視点で議論を深める「バイオサロン」を2回開催し、延べ80人が参加しました。

また、廃棄物や未利用資源を利用して高付加価値化する研究と新製品の開発に取り組む5社を支援しました。

3 地域と行政のDXの推進

① 長岡版スマートアグリ推進

農作業の負担軽減と生産性向上を図るため、ドローンや自動操舵システムなど、最新のスマートアグリ技術を導入する16経営体を支援しました。

② 除雪稼働管理システムの構築

除雪車の稼働記録と運行情報を一元管理するシステムを構築し、よりスムーズで丁寧な除雪作業につなげるため、市と事業者が除雪車の稼働情報をリアルタイムで把握できる稼働記録装置を除雪車395台に搭載しました。

③ 行政窓口のデジタル化

住民票の写しや印鑑登録証明書の交付申請など、新たに24手続をオンライン化するとともに、アオーレ長岡総合窓口などで書かないワ

ンストップ窓口とキャッシュレス決済を導入するなど、行政窓口のデジタル化を進めました。

4 需要喚起による地域産業の下支えと人材の確保

① 長岡市公式求人サイトの構築

D Xを活用して、慢性的な人材不足に悩む市内企業と、高齢者や子育て世代、学生など自分のペースに合わせて短時間だけ働きたい人をつなげるマッチングサイト「ながおかマッチボックス」を構築し、9月から稼働しました。

令和5年度末時点の登録事業者は161社、登録者は2,388人で、延べ2,360件のマッチングが成立しました。

② デジタル地域通貨「ながおかペイ」の普及促進

地域経済の循環をD Xにより推進するため、デジタル地域通貨「ながおかペイ」の普及を促進しました。

「ポッキリパスポート・プレミアム」における500円分の限定ポイントやミライエ学生来館キャンペーンなど、利用者と取扱店の定着・拡大を進めたことで、令和5年度末時点の取扱店数は185店、ユーザー数は22,981人となりました。

③ 農作物次期作支援金の支給

予想を超える米の等級低下と収量減少に加えて、農業用資材等の高騰に直面するコメ農家の稲作経営を下支えし、次期作以降の作付け意欲を維持するため、2,624件の農家を作付面積に応じて支援しました。

IV 長岡を楽しく元気にする活動の推進と魅力発信

1 若者から高齢者まで参加できて元気になれる機会の創出と環境整備

① eスポーツやアーバンスポーツの普及啓発によるにぎわいの創出

寺泊文化センターとトチオーレにeスポーツスペースを整備したほか、eスポーツの試行イベントやBMX、ボルダリングの体験会を開催し、延べ1,630人が参加するなど、新たなスポーツの普及によるにぎわい創出を図りました。

② 高齢者がデジタル技術を活用できる環境の整備

デジタル機器に不慣れな高齢者等を対象に、スマートフォンの基本的な操作から学べる教室を開催し、延べ524人が参加したほか、各地域のコミュニティセンターなどで出張相談を実施しました。

2 歴史に学び地域資源を活かすまちづくり

① 戦災資料館の移転整備

長岡空襲の爆撃中心点である明治公園に隣接する旧互尊文庫を活用して、戦災資料館を恒久的な伝承施設として整備するため、建物の実施設計や企画運営検討委員会による検討を行いました。

② 地域ブランド「越後長岡」を活用した観光事業の推進

宿泊事業者を対象に、データマーケティングによるサービス改善の勉強会やセミナーを開催したほか、個別アドバイザーによる伴走型支援など、地域の観光誘客力の底上げを図りました。

また、冬期間の宿泊需要を喚起するため、朝食付き宿泊プランの利用客を対象に、「越後長岡」最高級ブランド米「金匠」をプレゼントするキャンペーンを市内18施設で実施し、667件の利用がありました。

3 長岡の魅力発信による交流・定住人口の増加

① ふるさと納税を活用した長岡ファンの獲得

米や酒の定期便に加えて、アウトドア製品や錦鯉など、長岡らしい返礼品を充実させたほか、ふるさと納税ポータルサイトの広告を活用

したプロモーションの強化により長岡ファンの獲得に努めたことで、令和5年度は寄附件数124,358件、寄附金額31億1,302万円となり、いずれも過去最高を更新しました。

② 道の駅を中心とした誘客と市内周遊の促進

市内4か所の道の駅などを周遊するミッションラリーイベントを開催し、3か月間で約900人の参加がありました。

また、道の駅ながおか花火館は5月に来館者300万人を達成し、記念セレモニーを開催したほか、道の駅ルート290とちおで新たにマンホールカードを作成して、道の駅の来館者に約4,200枚を配布するなど、利用者の拡大を図りました。

以上で主要な事業の説明を終わり、次に、歳出の各款別の支出状況について申し上げます。

《議会費》は、5億977万円で、

対前年比340万8千円（0.7%）の増であります。

この主な内容は、議会運営費の増であります。

《総務費》は、183億8,238万7千円で、

対前年比7億1,501万8千円（4.0%）の増であります。

この主な内容は、ふるさと長岡への応援寄附金推進事業費3億3,963万8千円、コミュニティセンター整備事業費2億9,935万7千円、米百俵プレイスマライエ長岡運営事業費1億9,063万6千円の増であります。

《民生費》は、419億2,036万7千円で、

対前年比6億3,628万円（1.5%）の増であります。

この主な内容は、物価高騰対応重点支援給付事業費17億4,665万9千円、電力・ガス・食料品等価格高騰重点支援給付金給付事業費

7億2,621万1千円の増と、電力・ガス・食料品等価格高騰緊急支援給付金給付事業費11億8,915万6千円の減であります。

《衛生費》は、168億5,460万7千円で、

対前年比18億5,622万6千円（12.4%）の増であります。

この主な内容は、一般廃棄物処理施設整備事業費27億7,706万7千円の増と、新型コロナウイルスワクチン接種事業費8億5,233万6千円の減であります。

《労働費》は、3億3,110万7千円で、

対前年比2,083万2千円（6.3%）の減であります。

この主な内容は、勤労者住宅建設資金融資事業費2,266万円、インターンシップ推進事業費626万5千円の減であります。

《農林水産業費》は、34億4,143万1千円で、

対前年比4億6,630万9千円（15.7%）の増であります。

この主な内容は、農作物次期作支援事業費5億196万8千円、地域農業経営安定推進事業費5,395万1千円の増であります。

《商工費》は、33億5,766万3千円で、

対前年比20億1,431万5千円（37.5%）の減であります。

この主な内容は、新型コロナウイルス感染症拡大防止協力金給付事業費15億3,195万1千円、新型コロナウイルス緊急経済対策事業費2億6,835万7千円の減であります。

《土木費》は、186億5,808万5千円で、

対前年比32億6,508万円（14.9%）の減であります。

この主な内容は、大手通坂之上町地区市街地再開発事業費21億6,701万円、住宅建設等融資事業費5億3,047万円の減と、包括的土木施設等管理業務事業費3億3,233万2千円の増であります。

《消費費》は、76億4,063万2千円で、

対前年比7億7,246万1千円（11.2%）の増であります。

この主な内容は、高機能消防指令センター総合整備事業費8億7,626万1千円、小国地域防災拠点整備事業費1億1,480万1千円の増であります。

《教育費》は、109億4,082万1千円で、

対前年比2,964万6千円（0.3%）の増であります。

この主な内容は、中学校大規模改造事業費4億2,372万9千円の増と、小学校大規模改造事業費2億3,185万9千円の減であります。

《公債費》は、159億4,529万4千円で、

対前年比28億1,200万3千円（15.0%）の減であります。

この主な内容は、長期債償還元金28億2,208万4千円の減と、長期債償還利子1,011万3千円の増であります。

《災害復旧費》は、5,788万3千円で、

対前年比725万9千円（11.1%）の減であります。

この主な内容は、令和4年融雪災害復旧事業費6,514万2千円の減であります。

次に、下水道事業会計と水道事業会計、簡易水道事業会計を含む特別会計について申し上げます。

歳入総額は、779億7,691万6千円、対前年比1億1,814万3千円（0.2%）の増、歳出総額は、819億2,910万1千円、対前年比6億9,571万4千円（0.8%）の減であります。

歳出の主な内容は、下水道事業会計3億8,382万4千円（2.2%）、水道事業会計3億3,067万9千円（3.5%）の減、介護保険事業特別会計3億3,806万9千円（1.2%）の増

であります。

なお、一般会計と特別会計の総額は、歳入では2, 223億4, 299万1千円、歳出では2, 199億4, 914万8千円であります。

次に、令和5年度における「財政調整基金等の状況」、「財政指標」及び「健全化判断比率」について申し上げます。

《財政調整基金等》

令和5年度末現在（出納閉鎖時）の残高は、

- 財政調整基金 98億4, 530万7千円
 - 減債基金 18億9, 610万円
 - 都市整備基金 40億9, 919万4千円
- 【3基金の合計 158億4, 060万1千円】です。

《財政指標》

- 1 財政力指数は0.587で、前年度の0.598に比較して0.011ポイント低下しました。
- 2 経常収支比率は92.6%で、前年度の92.4%に比較して0.2ポイント上昇しました。

《健全化判断比率》

- 1 実質赤字比率及び連結実質赤字比率は、赤字の会計がないため数値がありませんでした。
- 2 実質公債費比率は7.3%で、前年度の6.5%に比較して0.8ポイント上昇しました。
(参考：早期健全化基準25.0%)
- 3 将来負担比率は73.1%で、前年度の66.6%に比較して

6. 5ポイント上昇しました。

(参考：早期健全化基準350.0%)

以上、令和5年度の決算概要について申し上げましたが、決算の内容については、「令和5年度長岡市一般会計・特別会計・下水道事業会計・水道事業会計・簡易水道事業会計決算書」のとおりです。

また、予算執行状況の詳細については、一般会計と特別会計は「令和5年度主要施策の成果及び予算執行実績の報告書」、下水道事業会計は「令和5年度下水道事業会計決算書」の事業報告書、水道事業会計は「令和5年度水道事業会計決算書」の事業報告書、簡易水道事業会計は「令和5年度簡易水道事業会計決算書」の事業報告書のとおりです。

最後に、寺泊老人ホーム組合の令和5年度一般会計決算について申し上げます。

寺泊老人ホーム組合は令和6年3月31日をもって解散し、その財産等は長岡市に引き継ぎました。

詳細は決算報告書のとおりです。